外邦太平記

五

へ13
3493
5

門へ13
號 3193
巻 5

早稲田大學圖書
昭28.9.11
藏書

外邦太平記巻之五

石宮ふ對ド武曲後巻之

邦者ニホてきー稱ーと賀賞比佐ゐちペー裏ふ寧武曲
わいぶい張旭さうがた発ふ已ゲ邦曲吾伏られ至上將と
おまふ乳軍憑ぐんふ呉陣友ちん元嘩ぐんー退治比義ち
いやり都督とちり元帥ふちりー源く膳り何
如ふーてさまたぐんと呉ひ極く工風な年といどるち
ひちびとて又ー石宮ふ對ド傷兵をもつて後ーて

曰く孔明深く此度如何と為命有又元丕陣友
ちんゆう といふるおもむき智あるもけく元帥を命じ
ぐるえ曄ぐんようい 緘物とい云あらず 績を多く人数有
もけるをべ中く元丕を元帥ふおほとも 情物をふ牛
なくうつりて 緘使勢ひ猶るべしとおもふ 此元丕をす
やし孔明深くいふ出とやいうんゆ牛りあしえらい
孔明深 呉陣 呉陣出 を上月ひろい 三月の都有
ありて 改事とり呉陣出 はをして都智と
呉をさづ考べき心あるを帝孔明深 於智をやい
しひしるを心ふ憐り 仲おくも帝をうみはも

をうふ出れ者大軍を率し 緘使たいじ ふむりふうもと
りくしたをたうんやまく呉陣友 まく ふまふ
とおりやうんの形ふ立し 元丕ふていづうんで孔明
うもいも智をもたんをにうしこくも帝前ふて 兵法
を速しも貴歎いく元帥とい行猶いく 義又うう
彼うあう小京の大軍 出れとあし 月ふう 式業を 為りて
あばく越いとべめし べふ出ふ 兵ふ組おも 張旭ちう 初て
敵を洲ありとし 閑行ふ偏衣をもつて帝へ 義し 内
此器とおし 兵ふりうう 況年 人 祝ふ天ふの 智と
を 故文武此官人智勇此士 数業帝 新に止まれべふ

たゞび軍兵を俘ぜゝを都督元帥余人をして勅使
有て志ゝ〳〵長を殺わくば勇士が徽忠を望さう
しうひゝく内養わゞひたてまつると偽言巧〳〵小述る
小ぞ后宮劉題りゃう八女儀あれば武曲ぶきく巧言を
御と異ひ御ぢう元紀利の尚侍あり元弓如きも元紀を元
帥とあさびとも余小智弱け元紀多あるを帝をまよ
ふ元紀平漢ふ其とやいん海の精忠さう〳〵ごうら
帝小内養せん心やすうれ寧武曲とおふせあるいな女
は其為ゆく武曲ぶきく〳〵まうとも能景あるふぞ再
び内養ゆたといゝども帝いさゝふ新ひたすいず

して徽為をまうりう稱后宮劉題りゃう とゆくゝと
おもひうづらひゝく日寧武曲ぶきく と帝あうせて
帝小内養ゆたい小武曲ぶきく八稚く言葉をひうて おはせた
非をゆく〳〵 帝小元紀平漢ふ張旭ちゃう 陣友ぢん等を陣
すと以ゝども交ふもちひうゞ后宮劉題りゃう 側より反
おもとゝいゝども これまく交あひうゆして徽ふ入りて
んとしゆたそ寧武曲ぶきく 養ゆと得ども 紙をまうひ勇反源ゝ以りりひうれい
武曲ぶきく八明うるはを ふまうもやゝゞ 紙をまうり
たまうふいませ〳〵后宮 いうう吐空をしりそれまう

みこと

武曲後天帝孔明ざる此図
后劉禪
寧武曲

咸豊帝

りうふぞ寧武曲きくぶいん給ふ有まこと〳〵とうとやと
〳〵りうるそもく咸豊帝ぐんぐう武曲ぶきくに門養
を勇ひかきい孔子廟ばうに張如ちやう内養ぜんやう後ごに有
ををりうて光悦したい寧ふ咸豊帝ぐんぐうふふ
〳〵と泣くるぞいりうどど后宮ふ對ぐ武曲ぶきくに内養
するとも勇ひかきるるもり〳〵そ後孔子廟ばうにん
張如ちやう内養〳〵回く寧武曲ぶきくは〳〵くんねんの
はとと紅い器ぶふ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵味方はものくさき
ゆかるび楽をか〳〵筑て代わを持ぐ〳〵と養した
る帝叡哀けひ武曲ぶきく傷ぶ悔くき奴楽ぎ人

給くをふきむと紅い器より大津を仕掛ぐ一のやまつと
古今ふたりう〳〵よりて楽を藝辰中分義武人
をひてきらせると逆鱗をたびつく役人ぶ有
寧武曲ぶきく結辰べし〳〵と有て結役人を叡書をか
〳〵ぶり辰る武曲ぶきく今文ふ悔むとしんどもその身
けつくのりうくふ辰ぶ〳〵押鎮られて敗日をりう
りうとあり

官軍進義賞別籠城之事

さてまゝ刑州張旭陣へ十百ヒ兵を率ゝ襲撃せい押へとゝく孔平漢ハ先立すでホ進發ゝ
袁林遠湯へ帰り軍令を厳ゝ堅固に守りいたりけるヌ又ハ孔平漢ハ敗ぞくと元嘩ぞく
退治とゝて三十騎ヒ真兵をそつゝ長陣友ごもん
を元帥として永日ホ小余ハ孔平漢ハ敗ぞくとゝりなるヒ志
たゞふ勇將ホハ徒孔平漢ハ楚成恭たい乾ちん
文素朝ちょうり權忠慶りゅう魏震ぎん留伊りう袍
張進ちょうホ帰りそヒ別ゝ者ハ礼を迎ゝ織
好元嘩ぞく退治ホ出勢いゝ織ヒ下

知をうけて忠戦をたゝかはむべーと帰り係てホ来る
人程度金昌ハ江西巡撫の趙元宗ぞく長沙陳虎
山ハ分別ヒ太守劉璋ハ円湯別の大き曹
寛ハ等真兵を率ゝ四方ゝより進發ホ忠勇
ホ十騎余と宴へたり小余ホハ孔平漢ハ元帥長陳友
ハ敗ホむりて曰ハ敵軍ヒ門事白玉ハ妖術
つをゆてさまゝヒ怪異を行ふゝ是ホよりて法幸々
敗ぞくゝ何ホして是を防ぐべきや長陳友ハのい
ゝく妖術幸法ハ鬼神を行ひ是ホて法人ヒ眼をく
らまし鬼ハ多ゝ又法ハ人ヒ病性を鬼ゝ法の

肌肉ふ入てさま〳〵に怪異をあら〳〵種〳〵の惱みあり
妖術いと色〳〵を示しまどはす人に惱みを一旦に
病ひと為りぬ〳〵我皇天子に名醫華陀
を使へし〳〵病勢強ありことを以て問す時そ
使をたちまちふ労し妖術彼をてその後〳〵ちと
呂ひ逆よりて帝ふねがひ彼に名醫を求ぶ〳〵借り
樊〳〵白して妖術を推ん孔辛漢より為とびて曰
元帥の術高く妙なり為られをに美帝〳〵養生せん
とて孔辛漢に命に朝〳〵参り養生〳〵病勢強
を偽りなき元帥呂陳友ふ〳〵〳〵三軍を勢

〳〵まで北京を進發して南京さして発ち寄
に元帥呂陳友ふ一の計謀を巡らし孔辛漢に
むかつて曰く先つ張角に攻落されたる
光別博ふ赤眉清ふ倉米弁〳〵ふ鄧ろ也張ふ
都督大軍を率〳〵小京を進發と為たるを行程の日
数を考へ守備に用意をなし〳〵あらかじめ
千里を立るにくくびとざる物業を見を求ひろと知へ
年人ふ日路を一番物ふ発ろふつくびとろて物を
に星をあくふべ〳〵法る時ハ光別に城物日数をいんが
〳〵あざむ法とはいざるを攻るあ〳〵呂〳〵琴ふ楽る

べし。是をもて元帥が英雄をくじき孔明が奸雄をとりて
南京をせめ破るべしと諸葛亮に伝て我れ三
万の兵を率ひ巴蜀を経て水路より光明城
に上らんと都督は日ふ所なりて其平漢の曰く
百万の兵三千人ふ用ゐる程有や否や呉侯友曰く
われ用ゐるべし孔平漢曰く孔明は三万人に
兵をあつけるべし孔平漢曰く孔明は今雷子孫
一斧若史綾ちとて勇猛比双に比べ
おて曰くこれくらいは孔平漢に任ぜ
るもこれども此度の戰ひ孔明ふ諸葛亮

ふ先陣さきんじ孔平漢に元帥と
して先きせさせんと曰ふ孔平漢曰く我れ
ひ一万の兵二人を呉侯友ふ使ひ初戰
いく切をたてべしと行ふ今雷子孫若史綾
ち人ちひふちとびを陸友は三千の軍を
りをふへ丈より孔平漢に先立光明へと
後し若武をこうたぎ孔明は
光明城ふちづ死ぬ
使へを立今雷子孫
年一うち立一むちふ一て斧若史綾を先鋒と

一長陳友諒い後陣小使へと北を作り和喇叭
を吹立勇み進んだる所へ先手陣にて
金糸羊の一領の敵北の敵出軍共
も矢ばりやくざりしか北より漕しうと鬨ひ幾
ひを使へきくるを敵金糸羊一領赤地海
むうつて回く友軍不意打来りて眉を睨の光
気あり長年先手勢を門に、おひ宮軍北縁先
をくゞきくゝ戦おい家小志使をとり北へまく南京へ
あるをもつて加勢をたぶべく赤地海北曰、、使
遣され来るくるあると我あり小宮軍を途を

せわ奥も大うくに金くうくに見るに眼より見る時いたゞ
騒北敵るゞ所一所の子をうの一遊べ北我北もう
ひて一撃小逃ちゞ一友軍北奴京生捕寄りやべ一
と長長あり一士年ふや知ち一使へをうくや撃つ我
家ゝを養一ゝうに北も一ゝうゝ宮軍をるゝかふ
うくせを進くゝ寄る友軍北長先水大ゝいに新路西
にして眼い長北ゝくゝ寄るゝ鉄甲を動ゝをかけて
長張を引提後ゝ小遊り北り長宮軍北先鋒ゝ
分右ゝ後ゝ赤地海北をうて大ひ小喝ゝ

ゆうく世をけ乱れ織豪年ゝ栗に佐ゐぐう後貪欲の
心をおこし逆乱を企つる条奇怪なり池ゞ男子を
らむで我ゝ長綸をくくと繰寄を繰〳〵て突てく
る赤龍海中一言の宮巷ゆ多ぞ浪紛を舞〳〵
て是とむうひ合せ突花をちらし〳〵て戦ふたり長体去
ゐ士卒ゆ知を伝く長一巷ゆ揺〻立ゝと大毒
ゆいづゝ長熱勢一度ゆ突てゆくうこを勢ひ電光の激
ゆるぞくゆ元城去勢ち川き立ゝれどつと晴去て
敵変生赤龍海中ゝ斧石火紙と十合斗り戦
うひ〳〵か味うくけ敵を水心あくを流ゆ長紛をまき

おとされ狼狽〳〵て漂ふ訓ゆ斧石火紙ゆ流うと生
うさび突あすを赤龍海中ゝ生やくゆ身を乱るゆ
元〳〵一戦くを生て敵を寸斧石火紙ゆ大ひゆ起りて
雷のぞく鳴て逃突たり侍又合赤年ゝ城中
ゆ立て侍くを研り南系に子うをもつてゝよりを
岩ゆくせ防さけ如勢を生ひ又法年出ゆ知をつ
ゆく陽さけ月出ゆ立ゆ多ち生ゆる観波のく
合戦耳をつくゆく赤龍海中けたくうひ心
もとゆ〳〵と共合ふ生り戦場を見渡せば赤龍
海中が一軍宮巷ゆ合年をたくうひ戦美ゆ見

四ろ加令糸平ちひふおどろき敵ハぜんまを
ぐりぐびき弓矢を勇ましく引率し弓矢を離てまを
たりろ赤弦海ハ斧石火縅ハ赤ろ
ふくも兵を引あぐんとまるふ長弦兵を
ろ出かせ〜退兵閑んでおろるようて赤弦海
ろ死懸をもり〜たくろ出ろる四方八面丹者資
中は弓矢ふ矢ろ弓あるや討死とおもふ別ふ勇
とーて令難は書ふるん矢より深持の義より一軍の
勇兵あぐろれ突てうろ責先ろる大将ハ方天戟
を撫くたりを別ち別人ろぐび恢ろ令糸平

ろり赤弦海を敵ろんと突入ようろ〜ろ勢
まち又六瑞を突伏〜勇ひろ家て打立ろん敵
く赤弦海を敵ひ斧石火縅ハ突てろ
かる斧石火縅ハ世とも和ぜび令糸平〜にて
り令十令計り戦ひ〜に斧石火縅ハ遠勇志
うふ爲で九ぶび令糸平〜多で敵すべき力敵れ
叶ハぐ〜て弓を〜赤弦海と打ふ逃弦ろで
斧石火縅ハ二物を討ち〜まろ〜怒り士卒を
知〜勇ふ退事ろ迫く退て敵力ろる赤弦海
令糸平〜ホ反て同〜死力を〜て戦ふ別

はかをとぶらひ給ふより經波の夢をどつと覺して
一艘の軍兵引具もあり是は敵の味方と金系平
の赤旗清盛卿が赤旗ひるがへり進退事をみるに大
清帝令と大文字ふかきる旗をたてりる是別人にあ
らず金雲寺にあり是清盛卿が傳手を更可遂
たりかの寺に敵の後へ是りあり金系平
てきもをひやー赤旗清盛卿ふかひ敵ドてはくん
軍は雲霞雲りぐくをとり昼にあらず一軍かりて
味方を前後ふ開れべのごとくあー張てつれ
は紙ふかわて打死せん是ハいづ方を打漏りひ

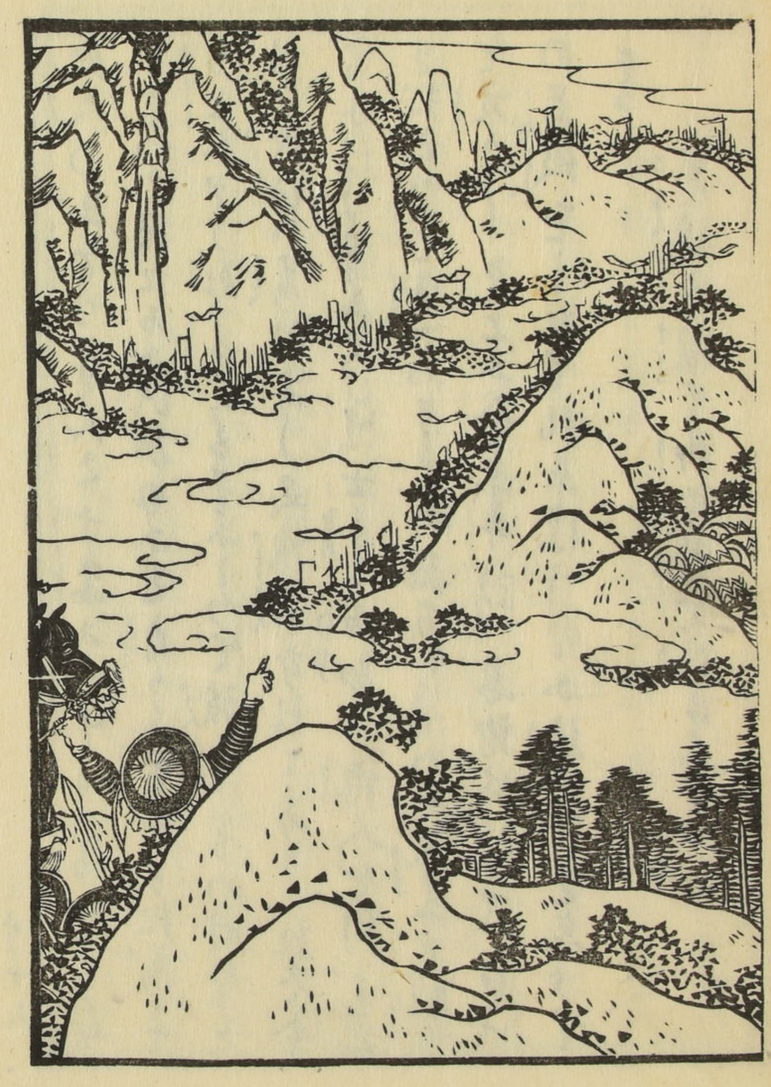
陣中へとり寄ふせき鬨ひきく彼是元多人陽く
内ふい南系より敵ひの矢市をとーを射を行てこれ
弧摩を雲きをとといふるいまこと後ぞに弓宮軍せ
まり進退前後たりふより蒜ひとり鉦をうちた
敵を明し南ちをさはひと切てまいるりぞ金系平
心死可如て血戦をされを宮軍ハおしもりるあ
後よりハ谷西火ハ後軍ハ南り
ハ金雲子ふらー濃沢として寒ーて攻ふる思
協会のうくく者ぐ高れず高れども金系平

曹操を攻め親子友軍を方天戟ふて突ふせ
たるを見て諸人金雷子に向ひ月日を振ぎりつて
くる金系平に一騎ヶ所ふ諸を見て平でゝ是ふて紀
せんや独ふ金雷子きんらひがたるふ紂を立り赤兎馬せ
いくして一言を切繰り城をさして逃ゆき
とん是い大清帝今の旗立たるふ赤兎馬ゆりかも
ぐるき子くも訪ふ城を第えれしろ詩ふやと云絶
として言るところへ金雷子ほんらい斧石史ふたちい士
幸を引男一騎ロ出る四天赤兎馬ゆりかも今いら
ちつぐと思ひ知をくるゝ大軍ヒ中へとびかりて

死人の山をつくせんと十字ふ切てまはるふて雷家
もさつと数たるふ此ひ母ふと自くる首を紀義して
ちと上ゆくゝ死ゝてくる是ふしてゆ疑を笑い叫ひと
思ひ武ひい義ゆあり又城条市にもありられで金
雷子ほんらい斧石史士幸ふ知一騎人を引きと
を我上げて城へ入る是陳友かたい一騎ふ見別城
を元くゝを上ふ金雷平赤兎馬ゆりかも夷ヒ
の首級をもたせれ平陳ふ猪軍を走らせ
る

呉陣友陳て御史冠を脱ぎ平

柳天龍



偖又南京石城據あい和京より対ゐ大軍卿と
云ふを聞て事あるにて天徳王諸將をや
さき軍評定ある処へ忽ち光別より書こり
金京平城より書を告げ方賊殺ひをもふを去
ぬりあり　天徳王　大ひに驚
きいうまべ官軍法ゐ日数百里の地を隔し
や不審きと曰つで法武弦　あて　いろくそ
地形を考ふるの神速を学び不意を対を長將と
ま去られで官軍方を兵術ふくるに元帥ありと
おゐへたり此度対ゐ孔子孫ゐ智謀りん

ひの長技と等　上強金城でき此頃ゐ
ろろくしを知て戦ふ時いあるれ方やぶををるで下
張道弘　いまく元帥のうるもひ一理あると
いへども服ゐ光別の老言いふせん殺いずんび有
ぐろろ法武弦りの曰く寄ふをありまこ
で心義剛兵一將をもて敵をしあ生時ふ人
をもある者ろ長技天発ゐ人曰く敵ろ人戦
光別へ殺ふ行んとある法武弦長を突出ゐ
是下一番の云を打奪して良利用まして去之
おくとこ光別長博せん若まく光別級をして

義城を途中にて皆のがるべし吉軍は旗を立てうちたかんばかりして攻るべし糸原は陣いくさ出と名くそれ柳天寛は海面に先をうつべし海面に用意者く一番人は台を乗り赤旗はせ給を敵こんと先別一と地たりとる扨又うつて強先別城中に異陣友は隙糸は士卒を休めて日くれは城を攻る時城将より南を敵ひをむりあるもやうを以て高を落しやいろふ遠一中にべしとあるふ長卒等いろく作は物く長を長加勢をとひろをで長ふ敵ひの一軍多るべし異陣友

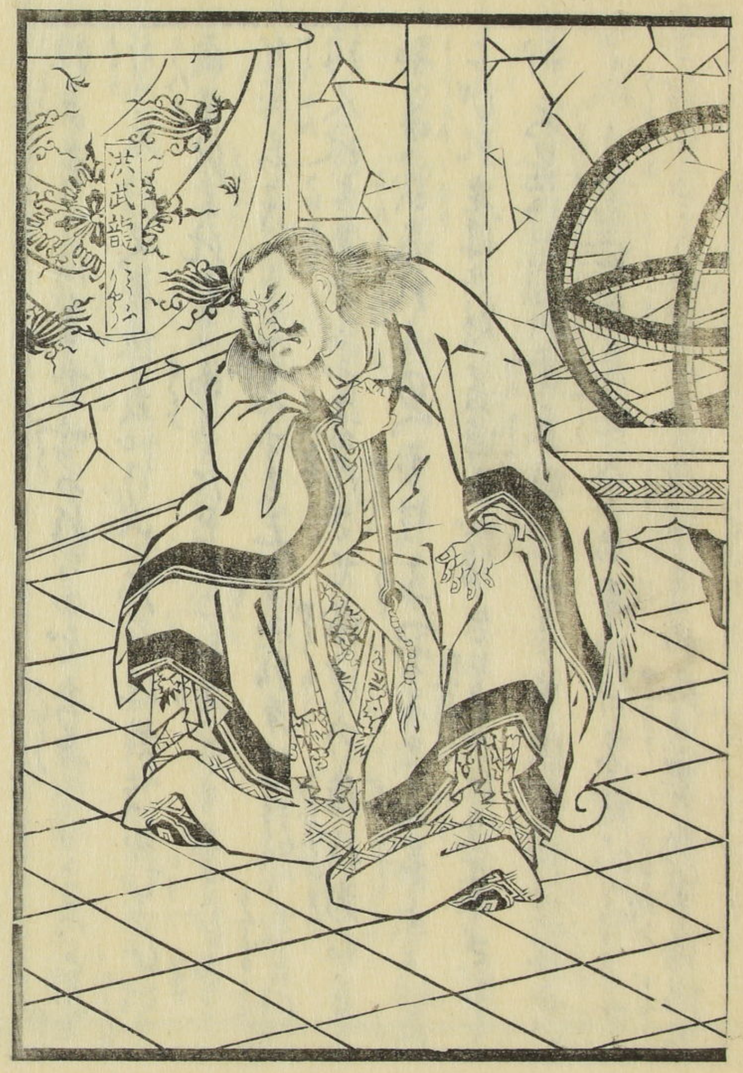
はいろくおれば南後さんとてちふ陣卒ふ中外て民家ふ放ふ火はげしを者ふ集あて中外ふ火人放ふ紙ふて多く藤を梅へ物すべしと人命しろをば民百姓どもはれあるべし紙の藤を藤て城中へ持ふ取百本ふ赤せりふて異陣友人ふ百姓ふ中外て訪しのらく落ふ林ふ逃つく取ふせ一郎ふ人七人ふて人命合戦をあり一軍ふ敵ふ陣は軍兵ふ形をふすべしふ対ふ指揮ふ指ふは少ふ郷民取休して落ふはり林ふ隠れて合戦をあり軍戦を長ふふをくよ

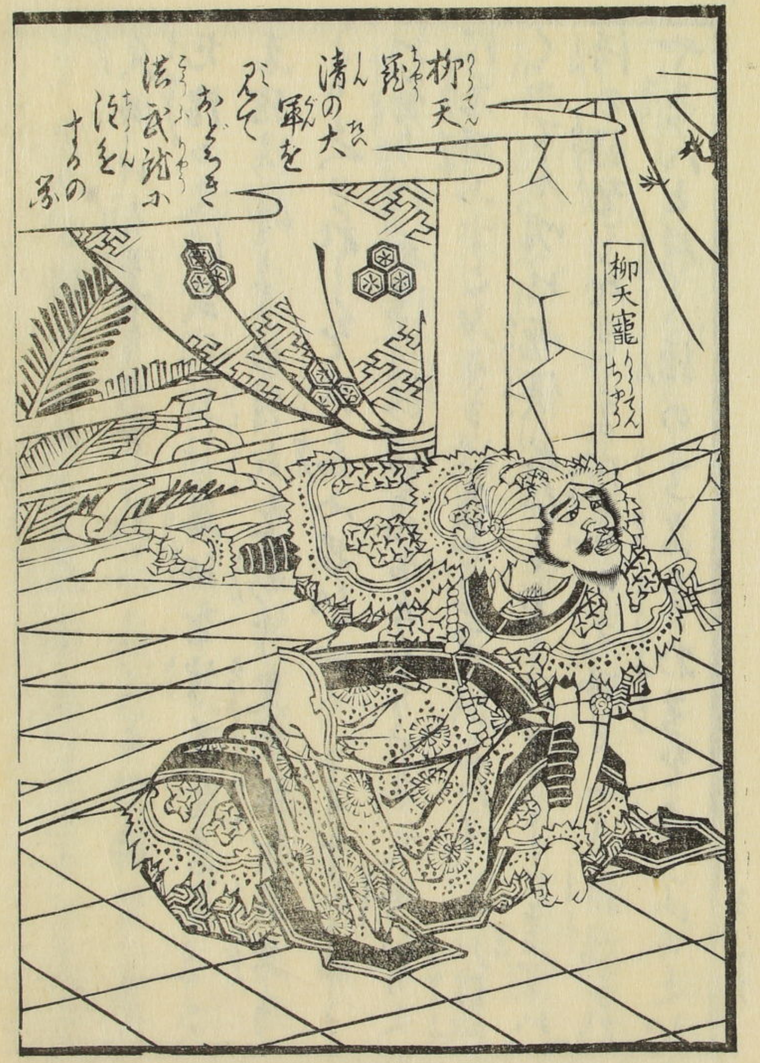
りえるに徳ふ大軍四方にらしふくちりてくるべくあり
今報を聞き山表ふ雲き陸も天地一変ふそ
づくることは見るべく是ある異事なり非凡みてよく
その指揮ふ当たらざるふかを考ふるべくあるべきなり
又南京よりの柳天冠一番軍の兵を率して
光別へ進行取沙法をたくさんとふ早くも光別らく
帰りて今南京一赤地海とともに討死す
ちゅう軍兵あるべく候人とありそのうく教義の義軍
邪正ふ至潜し南京よりの密書さらに押丈えん
てうちもるべしとあるとえ風説なるあぞ柳天冠

たひふちとちうきかりせん元帥法武冠
ちゅうれるる義城せーとなるを我らびしてけるべーと
ありしるるー既ふ中ふ斗りぐーを急ふも南ふ
も今ー光別城ちうくわてうんと人をいそうせて
光別方へ兵を対又を兵四方ふたるべ四方ふ
教義の軍兵全報をちうー大強小強を押えー
ひくにつくるり教十里の外まで雲ふくり天地
もふ手ふ斗り附の一名再をつるべーを板ふ柳天
冠ちゅうを縁おどろきされぞて法武冠ふ言
を的中せり古代大軍へ出れ一番れ者みてむふ

とも幸てゝ結ゐを設んやとくゝ思せと柳天寇
[illegible] 猛風ふきたて雪ふきたれ食糧を
絶け軍卒をはつさせやけうぐのていみて南蛮
とゝきゝ入りゝ人又数ゝ[illegible]みかり兵隊共
う儲異ゝ[illegible]ゝ柳天寇はこれ勇み倦つたるを
くぶきたる天時の元帥ありと宿軍の結ゐも
中にはこれ卒隊は船兵隊共ゝ長智[illegible]
ゝて高坐ふ意見をあて行ひ全雪ふ[illegible]
斧右大[illegible]ゝ軍人令ふ[illegible]せ行却もた
おつゝゝ又軍卒ふ[illegible]ゝ結ちいくさはきゝ汚者

[illegible]ゝ[illegible]ゝ又兵隊共ゝ孔卒隊ふ[illegible]
[illegible]ゝ民家はも[illegible]ゝ働きたるこれ等ふもゝゝ
[illegible]ゝとぶんずるとふ孔卒隊[illegible]むとけ
隊人はも卒ゝふ業内させ城中の結ゐ為をとり
おさせ民家はものゝふけ[illegible]ゝ老幼をも[illegible]
こび孔卒隊[illegible]兵隊を[illegible]ゝ[illegible]
柳天寇[illegible]ゝ南京城へとりて法武[illegible]
さゝ[illegible]の為体全卒[illegible]ゝ[illegible]
ゝ対死ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]


洪武龍


柳天寵
柳天寵
清の大軍を
ひきて
おそれき
洪武龍が
法を
するの
家

とり定ふ金鼓をならし吳客ゐんどるふよつて
元帥は吉平高平高こうひやうこと物陣せしそ
物陣ふそ法武弦高西を等て金高平
赤弦法武弦の対死を勢ゝ光別孫を女軍
とりこしされしを法武弦ふ見ひ曰くこうすいりこう
は乱り礼平高ふいあるとりこき大将ゐり文
に元帥ふすこぶるもはなと見るは上ふよふるは孫西
くふてを明は硬後見ひも孝ゝ是近西
清の酷をこれきこる何ゐる元帥とゐり物探ゐ
やうんと怪く清の高名勇物苦を考ぐふるとい

ゝどきこふ九高りゐゝあふゐるゝんや九丑吳陣な
元帥ゐさこふ法武弦もふるひ孝ゝ
在て只不見俄ふ見ひこう法武弦は智勇名偽のもふ
物れれむふしもどゝせば山平天徳王ゐゝ美等ゝ
偽物を集ゐ軍高ふ在ひゐる

曰く吳陣な法武弦山後ふ
ゐりて西龍智我たくゝべ勝敗をゐゝ明せ
ひ一度陣な物れたゐふ敗をゐゝ天徳王
ふハ偽物対死の後ゐゝ山平高平ゐて

ふせき戦ぐふとゝ以るつひ大敗とあり元弊
元亨の天德王朝ふたり強れ男びと又明
北条氏の専横は明ふより和辱を雪きて
明の一統とある侯況をそ考りねゝ

郊邦太平記巻之五

御書